

生産性倍増に向けた取り組み状況

(2017年度)

2018年6月 東京電力ホールディングス株式会社



目次

1 . 生産性倍増に向けた主な取り組み事例……………03

2 . 経営合理化の取り組み状況……………06

生産性倍増
プロジェクト

カイゼン
事例紹介
01

1. 生産性倍増に向けた主な取り組み事例

火力発電設備定期点検 カイゼン作業拡大によるさらなる効率化

東京電力フエエル&パワー株式会社

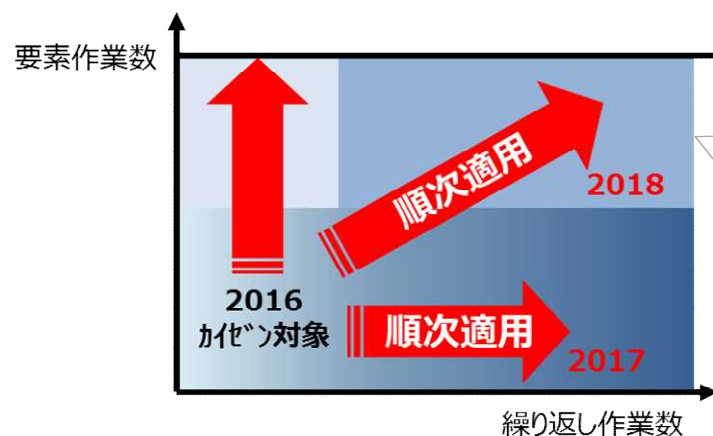
火力発電所の定期点検で行う作業を短時間かつ少人数で実施できるよう、これまでのカイゼンをさらにシンカ(進化・深化)させています。複数人でのまとめ作業を実施していた電源盤作業について、一人作業・同時並行作業とすることで、さらなる作業時間短縮を実現しました。

カイゼン
ポイント
と結果

作業台を用いることで、複数人でのまとめ作業を一人作業・同時並行作業とし作業時間を短縮

カイゼン作業の拡大

火力発電所の定期点検で行う作業を細分化し、カイゼン活動をシンカさせています。これまで、“作業回数が多く作業期間が短い作業”のカイゼンを進めてきましたが、これをさらに、“複数人作業で作業期間が長い作業”にも広げ、さらなる効率化を実現しています。



電源盤作業での作業時間短縮

電源盤作業では、これまで、点検対象機器を床面に置き、複数人でのまとめ作業を実施していましたが、これを作業台を用いて一人作業とし、同時並行作業とすることで大幅な作業時間短縮を実現しました。

【カイゼン前】



・点検対象機器を床面に置き、複数人でのまとめ作業

【カイゼン後】



・作業台を用いることで一人作業とし、同時並行作業

作業期間 25分/台 ▶ 4分/台 (▲84%)

生産性倍増
プロジェクト

カイゼン
事例紹介
02

1. 生産性倍増に向けた主な取り組み事例

地中送電設備埋設工事の効率化

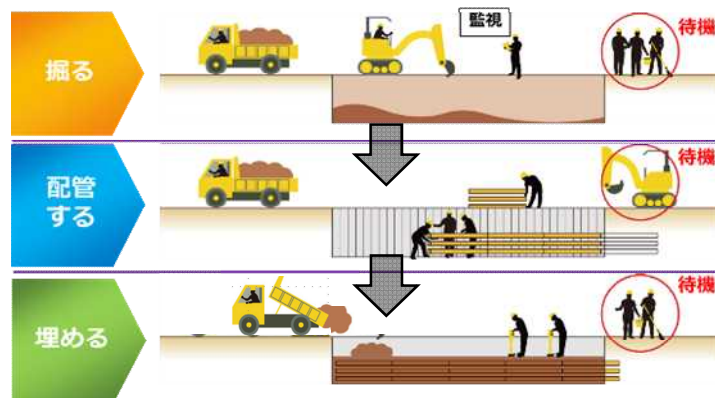
東京電力パワーグリッド株式会社

地中送電設備の埋設工事について、これまで「掘る」・「配管する」・「埋める」の工程を順に実施していましたが、これを「同時並行作業」にカイゼンすることで、効率化を実現しました。

カイゼン
ポイント
と結果

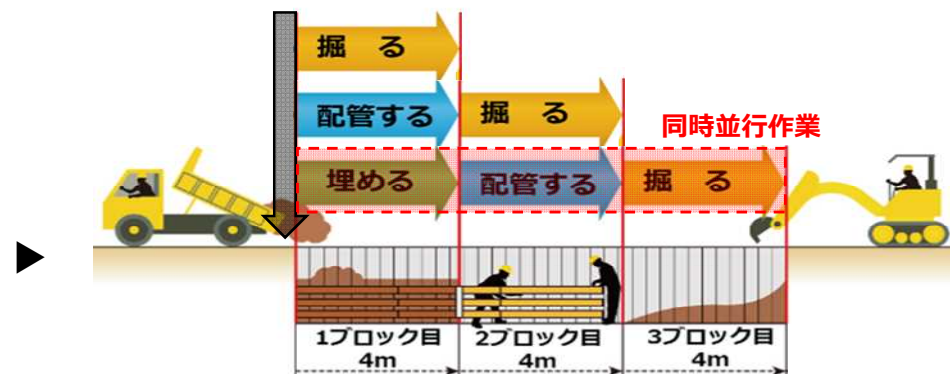
「掘る」・「配管する」・「埋める」工程の同時並行作業化により1日の施工量を約3倍に拡大

【カイゼン前】



一日の作業範囲を、「掘る」→「配管する」→「埋める」の順で施工

【カイゼン後】



最少単位4mでブロックを区切り、「掘る」・「配管する」・「埋める」を実施することで同時並行作業を実現

10m / 1日 ▶ 28m / 1日 (施工量を約3倍に拡大)



1. 生産性倍増に向けた主な取り組み事例

スマートメーターシステム切替作業の効率化

東京電力パワーグリッド株式会社

スマートメーターシステム運用業務の一つであるバックアップ局への切替については、これまではメーカー技術員による多人数・長時間作業でした。これを当社社員による内製化でコスト削減するとともに、作業工程のカイゼンによる作業時間の大幅な削減を実現しました。

カイゼン
ポイント
と結果



【カイゼン前】

メーカ実績
5チーム
46人

データ同期停止	拠点間	その他同期停止	サーバ名変更	サーバ名変更 (連携)	システム確認	データ補正	監視機能有効化	サービス起動 (連携)	接続先変更
---------	-----	---------	--------	----------------	--------	-------	---------	----------------	-------

5時間

【カイゼン後】

直営
2チーム
5人

同期停止	データ同期	拠点間	サーバ名変更	サーバ名変更 (連携)	システム確認	データ補正	監視機能有効化	サービス起動 (連携)	接続先変更
------	-------	-----	--------	----------------	--------	-------	---------	----------------	-------

2時間45分

- ・2つのチームが同時並行で複数の工程を担当 (同時並行作業・多能化)
- ・コマンドの集中投入ツールの導入(システム化)
- ・一部サービスの常時起動化 (外段取り)

のべ **230人・時間**
 ▶ のべ **14人・時間 (▲94%)**

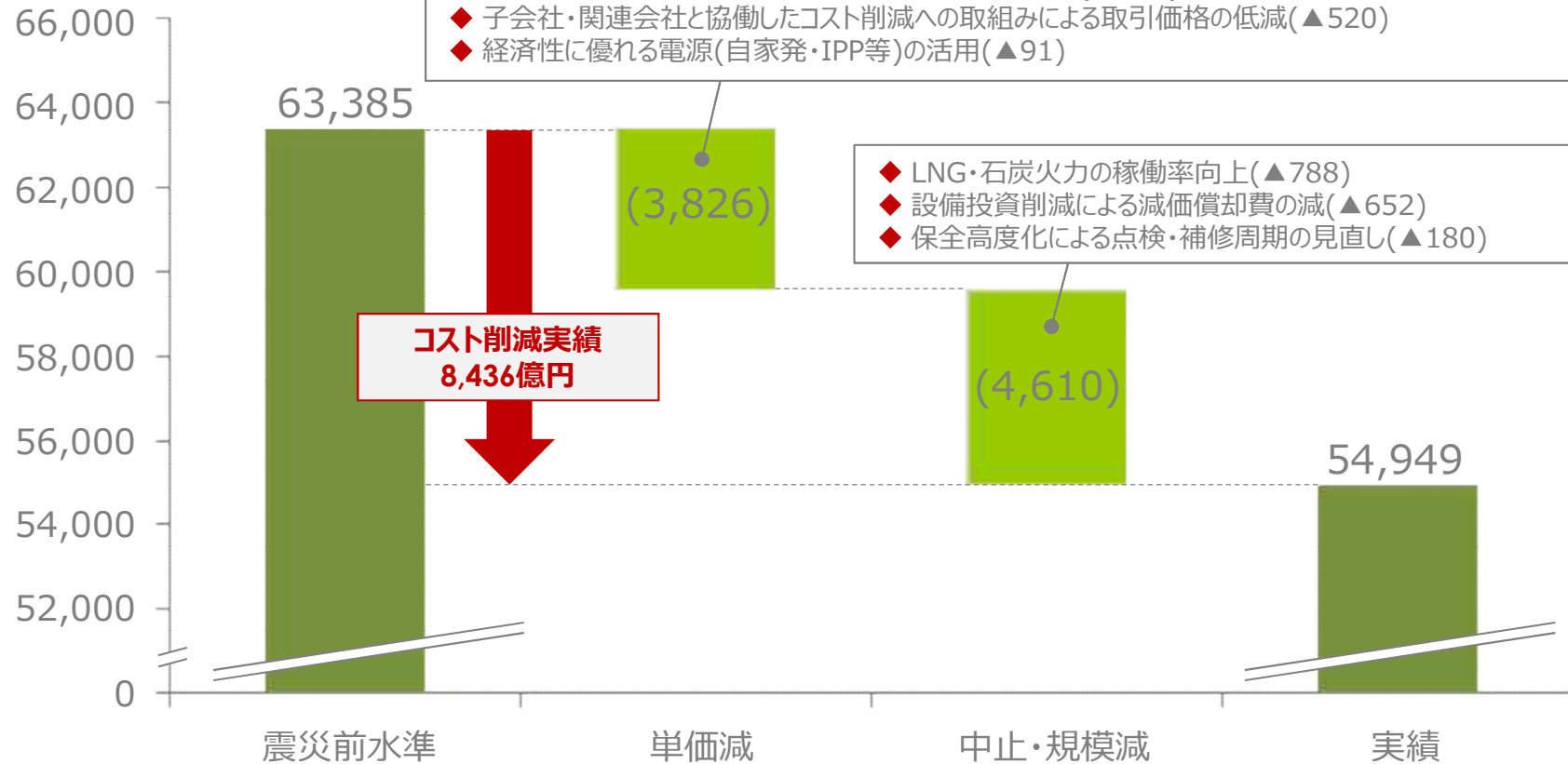
2. 経営合理化の取り組み状況

2017年度のコスト削減実績と施策別内訳

◆ 2017年度のコスト削減実績は8,436億円であり、目標(7,021億円)を1,415億円超過達成しました。

電気事業営業費用

(億円)

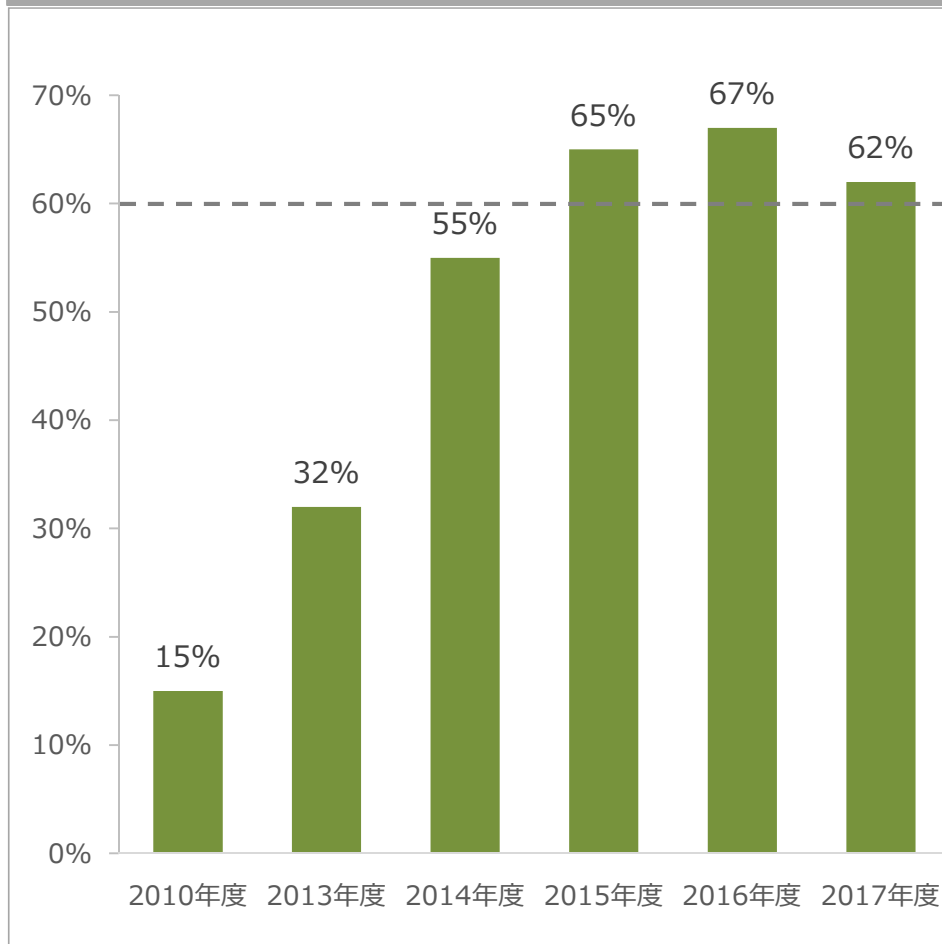


2. 経営合理化の取り組み状況

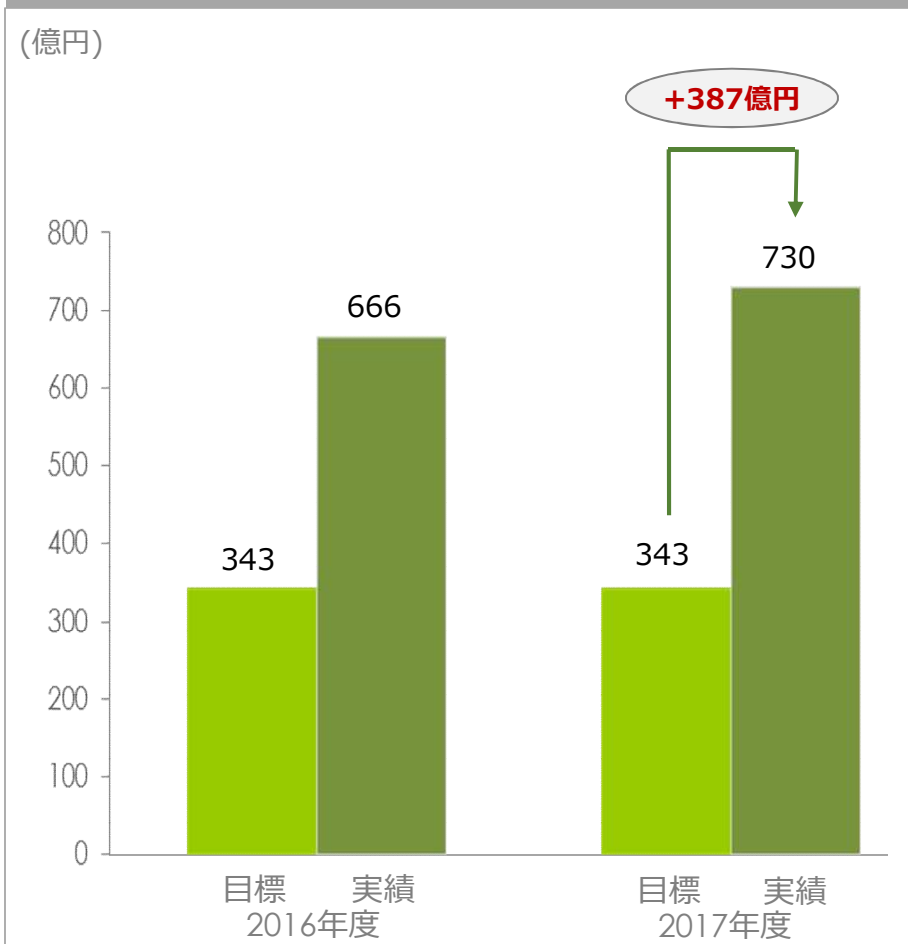
競争調達比率拡大・主要子会社のコスト削減実績

- ◆ 2017年度の競争調達比率は、料金査定時にお約束した60%以上とする目標を、2015年度以降、継続して達成しております。
- ◆ 主要子会社のコスト削減額は、2017年度目標343億円に対し387億円超過達成しました。

競争調達比率実績



主要子会社のコスト削減実績



2. 経営合理化の取り組み状況

要員効率化について

◆ 「総特」における10年間の人員削減計画を前倒して達成した以降も、継続して効率的な事業運営に取り組んでおります。

